**２０２３年７月30日(土)　高峰高原会場**

岸本尚毅

〇 山に雲湧き百合化して蝶になる 井越芳子

臈闌けてくる夏の雲晴れ三日 石田経治

日陰蝶山小屋厳に塞ぎある 青木百舌鳥

とんばうの風にまはるよ柳蘭 青木百舌鳥

降雪機並ぶ斜面や夏薊 天明さえ

高田　峰

〇 炎天やリフトの索の中弛み 大坪正美

蒙古斑隠してしまふ天瓜粉 石田経治

ガレ山に仁王立ちなる雲の峰 前田なな

杉木立こぞりて脚の涼しけれ 大坪正美

花の名をどうのこうのと花野ゆく 和田　桃

三上朋子

あめんぼう飛べば水底影も飛ぶ 浅間二晁

柳蘭さまざまに揺れ同ぜざり 高田　峰

ふしくれの手に音生まる胡瓜揉 宮成乃ノ葉

〇 ガレ山に仁王立ちなる雲の峰 前田なな

さはさはと彩のゆらめく大花野 前田なな

山本道子

突つ立てる梅蕙草に雲疾き 青木百舌鳥

見えてゐて遠き山嶺や夏薊 平松貴子

露涼し山神祀る石祠 天明さえ

降雪機並ぶ斜面や夏薊 岸本尚毅

〇 さはさはと彩のゆらめく大花野 前田なな

前田なな

ぱつきりと花の七つや小鬼百合 天明さえ

炎天やリフトの索の中弛み 大坪正美

〇 杉木立こぞりて脚の涼しけれ 大坪正美

咲きすすむ莟掲げて柳蘭 三上朋子

ささやいて白山風露と教へらる 浅間二晁

平松貴子

販婦の歌膝ついて瓜を売る 山下疾風

この花野得て連山のにぎにぎし 和田　桃

〇 山に雲湧き百合化して蝶になる 井越芳子

高原を走るそよぎの音涼し 宮成乃ノ葉

ささやいて白山風露と教へらる 浅間二晁

苫野とまや

この花野得て連山のにぎにぎし 和田　桃

暇さふなリフトの支柱夏の山 白井美也子

〇 熊鈴のどこか鳴りをる黄菅かな 東　鵠鳴

鈴のして登山者の顔現るる 大坪正美

降雪機並ぶ斜面や夏薊 天明さえ

天明さえ

炎天やリフトの索の中弛み 大坪正美

杉木立こぞりて脚の涼しけれ 東　鵠鳴

見知りたる友のごと来る赤蜻蛉 大坪正美

幣桧結へる鳥居や赤とんぼ 三上朋子

〇 さはさはと彩のゆらめく大花野 前田なな

東　鵠鳴

〇 涼風やバス待つ時も語らひて 平松貴子

始まりのなくて雲ある蜻蛉かな 岸本尚毅

夏の山穂ある花のみ戦ぎをり 秋澤夏斗

やつて来る人や蜻蛉の飛ぶ中を 岸本尚毅

ひんらりと野へ躍り出づ夏の蝶 北杜　駿

大坪正美

連れて来し子が泣いてゐる風露草 岸本尚毅

〇 花の名をどうのかうのと花野ゆく 和田　桃

ふしくれの手に音生まる胡瓜揉 宮成乃ノ葉

風露草些事は下界に置いてきし 石田経治

露涼し山神祀る石祠 天明さえ

宮成乃ノ葉

木洩れ日にしもつけ草のあはあはと 三上朋子

見知りたる友のごと来る赤蜻蛉 大坪正美

お花畑そつと緑を踏み分けて 岡本へちま

連れて来し子が泣いてゐる風露草 岸本尚毅

〇 小流をせき止め瓜の五つ六つ 浅間二晁

山崎たか

杉木立こぞりて脚の涼しけれ 大坪正美

あさぎまだらものの音なき地上にて 井越芳子

降雪機並ぶ斜面や夏薊 天明さえ

高峰の地の貧しさに柳蘭 石田経治

〇 大花野二十四色では足りず 平松貴子

白井美也子

杉木立こぞりて脚の涼しけれ 大坪正美

木洩れ日にしもつけ草のあはあはと 三上朋子

祀られし山の神ゐるお花畑 安藤裕子

鈴のして登山者の顔現るる 大坪正美

〇 花の名をどうのかうのと花野ゆく 和田　桃

青木百舌鳥

風露草些事は下界に置いてきし 石田経治

山道の風涼しくて人やさし 東　鵠鳴

花野ゆくカメラに収め収めゆく 清水順子

避暑楽し草をくぐれる座頭虫 岸本尚毅

〇 高原の眩しき日向吾亦紅 和田　桃

安藤裕子

ぱつきりと花の七つや小鬼百合 天明さえ

〇 ふしくれの手に音生まる胡瓜揉 宮成乃ノ葉

秋茜つまんでみよと翅休め 山下疾風

下野や俳人はみな動かざる 白井美也子

むくつけきハイカーの鈴涼しけり 高田　峰

清水順子

〇 この花野得て連山のにぎにぎし 和田　桃

祀られし山の神ゐるお花畑 安藤裕子

水桶に踊る胡瓜や与良館 高田　峰

大夏野浅間の雲は自在なり 安藤裕子

人形の髷のごとくに車百合 山本道子

秋澤夏斗

見えてゐて遠き山嶺や夏薊 平松貴子

とんばうの風にまはるよ柳蘭 青木百舌鳥

石楠花の白揺れ噴火口しづか 苫野とまや

あかるさや日光黄菅いちめんに 北杜　駿

〇 山の神守りて白山風露かな 清水順子

山下疾風

切り裂きて腸剔（はらわたえぐ）り瓜を食む 浅間二晁

避暑楽し草をくぐれる座頭虫 岸本尚毅

〇 駆け来るや花野に帽子浮き沈み 青木百舌鳥

連れて来し子が泣いてゐる風露草 岸本尚毅

三度蝶戻り来たりし花野かな 山本道子

岡本へちま

避暑楽し草をくぐれる座頭虫 岸本尚毅

夏雲に青き余白のありにけり 秋澤夏斗

ふしくれの手に音生まる胡瓜揉 宮成乃ノ葉

風露草些事は下界に置いてきし 石田経治

〇 暇さふなリフトの支柱夏の山 白井美也子

浅間二晁

蝉の殻うつろを曝ししがみつき 天明さえ

〇 夏雲に青き余白のありにけり 秋澤夏斗

ふしくれの手に音生まる胡瓜揉 宮成乃ノ葉

風露草些事は下界に置いてきし 石田経治

炎天下見よ山の青空の蒼 岡本へちま

和田　桃

虫刈の実のあをあをと夏の果 秋澤夏斗

ささやいて白山風露と教へらる 浅間二晁

炎天やリフトの索の中弛み 大坪正美

見知りたる友のごと来る赤蜻蛉 大坪正美

〇 咲きすすむ莟掲げて柳蘭 三上朋子

北杜　駿

大夏野浅間の雲は自在なり 安藤裕子

〇 お花畑そつと緑を踏み分けて 岡本へちま

木洩れ日にしもつけ草のあはあはと 三上朋子

頂の雲の晴れゆくお花畠 高田　峰

高原の風に抱かれて柳蘭 秋澤夏斗

石田経治

涼風やバス待つ時も語らひて 平松貴子

始まりのなくて雲ある蜻蛉かな 岸本尚毅

連れて来し子が泣いてゐる風露草 岸本尚毅

ささやいて白山風露と教へらる 浅間二晁

〇 避暑楽し草をくぐれる座頭虫 岸本尚毅

井越芳子

茎までも濃ゆき薊に虫しげく 三上朋子

販婦（ひさぎめ）の歌膝ついて瓜を売る 山下疾風

夕菅や夕づく山に咲（わら）ひ出す 宮成乃ノ葉

人形の髷のごとくに車百合 山本道子

〇 降雪機並ぶ斜面や夏薊 天明さえ